

令和5年度教育課程研究集会
中学校 外国語

外国語科における
「指導と評価の一体化」を進める授業改善
—「主体的に学習に取り組む態度」の評価の充実—

令和5年8月

奈良県教育委員会事務局

学ぶ力はぐくみ課 義務教育指導係

松本 彩恵

中学校学習指導要領 外国語科の目標

中学校学習指導要領 第2章 第9節 外国語

第1 目標

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、簡単な情報や考えなどを理解したり表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

中学校学習指導要領 外国語科の目標

中学校学習指導要領 第2章 第9節 外国語 第1 目標

【知識及び技能】

(1) 外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどを理解するとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】

(2) コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で簡単な情報や考えなどを理解したり、これらを活用して表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】

(3) 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

I 「主体的に学習に取り組む態度」の評価に関する基本的な考え方

①「主体的に学習に取り組む態度」は、外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている状況を評価する。

②具体的には、「話すこと[やり取り]」、「話すこと[発表]」、「書くこと」は、日常的な話題や社会的な話題などについて、目的や場面、状況などなどに応じて、事実や自分の考え、気持ちなどを、簡単な語句や文を用いて、話したり書いたりして表現したり伝えあったりしようとしている状況を評価する。

③「聞くこと」、「読むこと」は、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題などについて話されたり書かれたりする文章を聞いたり読んだりして、必要な情報や概要、要点を捉えようとしている状況を評価する。

④上記の側面と併せて、言語活動への取組に関して見通しを立てたり振り返ったりして自らの学習を自覚的に捉えている状況についても、特定の領域・単元だけではなく、年間を通じて評価する。

1 「主体的に学習に取り組む態度」の評価に関する基本的な考え方

単元の評価規準（「話すこと[やりとり]」の評価規準） 「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料 中学校 外国語」 P.48、P.79より

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 受け身や現在完了形の特徴やきまり、引用するための表現を理解している。 野菜の歴史について考えたことや感じたことなどを、受け身や現在完了形などを用いて伝え合う技能を身に付けている。 	<p>友達の意見等を踏まえた自分の考えや感想をまとめるために、社会的な話題（野菜の歴史）に関して読んだことについて、考えたことや感じたことなどを、英文を引用するなどして<u>伝え合っている</u>。</p>	<p>友達の意見等を踏まえた自分の考えや感想をまとめるために、社会的な話題（野菜の歴史）に関して読んだことについて、考えたことや感じたことなどを、英文を引用するなどして<u>伝え合おうとしている</u>。</p>

「思考・判断・表現」の観点の評価するには、コミュニケーションを行う目的・場面・状況の設定が必要

基本的には一体的に評価できる

「一体的に評価する」とは...

単元末のパフォーマンステストを行う際に、「思考・判断・表現」の観点で評価をするだけでなく、設定された目的や場面、状況等に応じて、相手に配慮しながらコミュニケーションを図ろうとしている様子や自己調整をはかりながら取り組んでいる様子を「主体的に学習に取り組む態度」として評価する。ただし、同じ評価にするということではない点に留意する。

2 評価時期の考え方

評価する時期

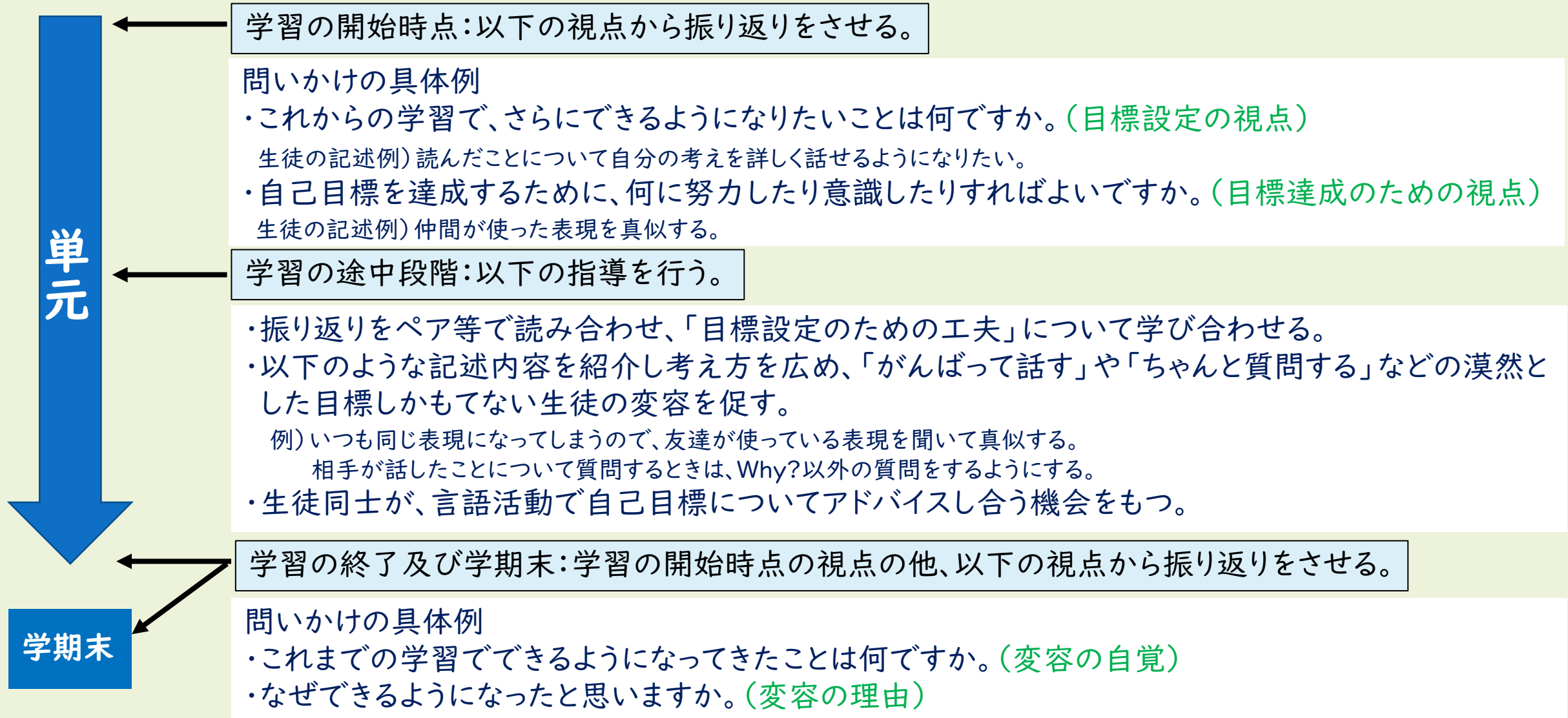
「主体的に学習に取り組む態度」を評価する時期は、単元終末や学期末等で行うパフォーマンステスト等が基本。

したがって

単元の1時間目に単元の学習に対する意欲化を図るといった指導を行い、当該指導により意欲が高まったからといって、「主体的に学習に取り組む態度」が育まれたと評価することは適切でない。

「主体的に学習に取り組む態度」は、言語活動に取り組む中で、「知識及び技能」並びに「思考力、判断力、表現力等」の資質・能力を一体的に育成する過程を通して育成されることに鑑み、一定の学習を経たのち（単元終末や学期末等）に評価する。

3 「自己調整」を図ることができるようにするための指導例



萩原先生の実践から

- 評価の充実を進めるには、何のために、何を、どのように指導し、いつ評価するかを計画することが大切。
- 単元末の評価場面に至るまでに繰り返し言語活動に取り組ませる。
→ 目標と指導と評価の一体化
- 単元の目標や評価規準、評価基準（採点の基準）を生徒と共有。
→ 明確なゴール設定
- 本時の言語活動について振り返るだけでなく、次に向けて、目標達成のための工夫等を具体的に書かせる。
→ 効果的なフィードバックと振り返りの書かせ方の工夫